

# 海を感じに真鶴へ

日時:2019年7月15日(火・祭日)海の日 天候:曇りのち小雨 15000歩 約10.5km

集合:真鶴駅 9時45分 10時出発

コース:真鶴駅→西念寺→龍門時→真鶴町民俗資料館→如来寺跡→岩海岸(頼朝船出の浜)→真鶴港→品川台場礎石の碑・ししの窟→貴船神社→コミュニティ真鶴→真鶴駅

参加者:平嶋(L) 常盤(SL) 高橋文(SL) 班長=斉藤 河野 吉岡/勅使河原 吉越 吉留 平石 熊坂 仲 奴田 小野里 青松 平山 佐藤繁 中村年 小林 野村 井内 伊藤美 小島 福士 市村 平林勝 桑原 桑名 澤山田 赤須 畠 脇坂 吉田正 鹿島 計35名

2015年7月20日の海の日例会もこの真鶴半島でしたが、その時は一般参加12名を含め62名の大会所帯!その上、猛暑日となり全員が大汗をかいてのウォークで体調を崩す人も。しかしこの日は朝から曇り空で涼しい。でも真鶴には抜けるような青空と太陽が似合いますね。駅を出た観光客のお目当ては真鶴港や三ツ石方面ですが、我々は駅前から海とは反対に東海道線の跨線橋を渡り山側へと向かうことに・・・今回は何時もとちょっと変わったコースの真鶴ウォークとなりました。

松尾芭蕉が立石寺で読んだ「閑さや 岩にしみ入る 蟬の声」は、今の暦では7月13日にあたるそうです。この蟬がアブラゼミかニイゼミだったのかの“論争”もあったようですが、そんな夏の暑さが待ち遠しくなるような一日でした。

<フォトレポート 小島>



※上空から見ると分かりやすいが、真鶴半島は箱根火山の噴火による溶岩流が海に流れ出て出来た半島。ここで産出される「小松石」は溶岩が固まったもので、中でも「本小松石」と呼ばれる石は最高級品。頼朝の墓石にも使われた銘石です。

真鶴の地で石材業が始められたのは、平安末期の1156年頃とされています。当時は「小松石」ではなく「伊豆石」「相州石」と呼ばれていました。『小松石』と呼ばれるようになったのは、江戸時代、芝・増上寺(浄土宗)の石材の見積書の中に、初めて「小松石」と言う名が現れたそうですが、その名前の由来は、真鶴町の北西部にある小松山からきています。



<真鶴唯一の海水浴場でもある岩海岸で全員集合。後方の橋は有料道路の真鶴ブルーライン>



朝の真鶴駅前。雨もあがりリーダーも一安心。



朝一の足慣らしはこの跨線橋の上り階段から。



真鶴中学校を曲がると先には上り坂が・・・



この坂、夏日ならずで汗をかいているかも。



熊坂さんのストレッチ。(ぬかるみに埋まった人も?体重?)



平嶋Lに常盤・高橋文SLの“水も漏らさぬ”陣容!



最初に訪れたのは西念寺です。



ここには黒田長政公の供養碑が。



なかなか落ち着いた佇まいの寺。



暫くご無沙汰の人も・・・お隣は笑い過ぎ?



真鶴に城跡はないはず・・・個人の趣味か。



東海道線の怪しげなトンネルを潜ることに。



無事脱出! 高さも幅もなく夜は怖そう!



花山車で知られる岩地区の氏神の兒子神社に到着です。 ここには長い上り階段が待っていました。(やや健だ~)  
 ※この岩地区は、真鶴町と合併する前は岩村と呼ばれていました。かつては「祝村」と呼ばれていたものが、「岩村」となったのだとか。「祝村」と呼ばれた由来は、この海岸から船出した頼朝が、平氏の追跡から免れたのを喜んで「祝村」とした。また別の説では、船出した頼朝が戦に負けたことがなかったことから「祝い村」と呼ばれるようになった・・・との話が残る。



境内には地元の氏子連が作業中。

神社の隣には龍宮社が・・・

でも荒廃し危険でした！



まだ乾ききってない階段の下りは要注意。



立派な宝篋印塔の前に出ました。



苔むした碑に歴史が感じられる龍門寺。



茅葺の本堂とはこの辺りには珍しい寺です。



何やら怪しげな階段を降りると・・・



そこは岩小学校の跡地でした。



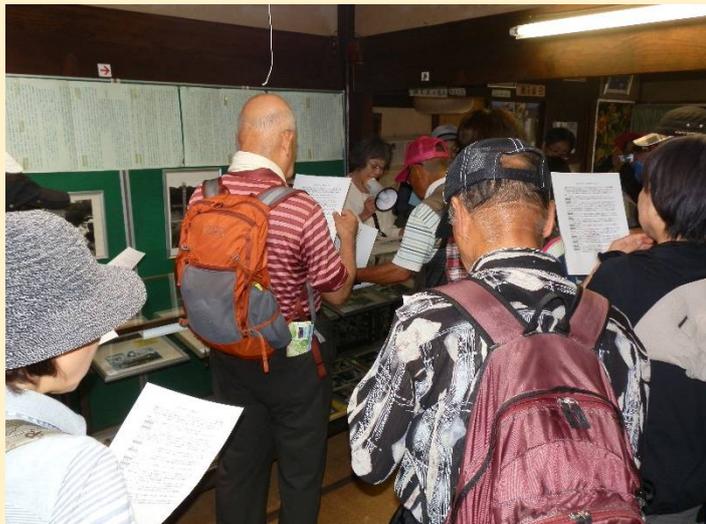
振り返ると確かに校門跡があった。



岩海岸を目の前にしたこの辺りには今も民宿が点在。



次に訪れたのは真鶴町民俗資料館です。(無料)



中では係りの人が丁寧に説明をしてくれました。



古写真・資料をはじめ古い漁具等も展示されている。



昭和初期の祭り旗も。



岩港沖の定置網模型も展示されていました。



ここは如来寺跡。ライト持参で入る洞窟の奥には多くの仏像がある。



お参りを終えて娑婆に出られた！



＜この梅雨模様の中、廃寺の暗い洞窟で“湿気を帯びた”面々も現世に戻ってほっと一息＞



岩海岸に出ました。ここは源頼朝船出の浜です。



すでに海の家もスタンバイ！（中はゴザ敷きの昭和スタイル）



ここでランチタイム。何処で食べようかな・・・



“司令部”はこの場所に。浜は広いので各自何処でも。



この場所なら弁当も旨い！



この3人は潮風を避けたの？



潮風も何のその。潮焼けグループ！



<見事に並んだランチ風景！ここ真夏だったら全員火ぶくれになっていたでしょうね。梅雨で良かった？>



何時ものことですが、皆さんのランチスタイルにも個性が。でも食べることは重要ですね・・・人間だもの！



食後は小さな岩漁港の中を通過。失礼します！



岩大橋の下は知られたダイビングスポット。



港からブルーライン沿いの脇道を行く。上りは渋滞中！



食後の腹ごなし。午後の部はこの上り階段から。



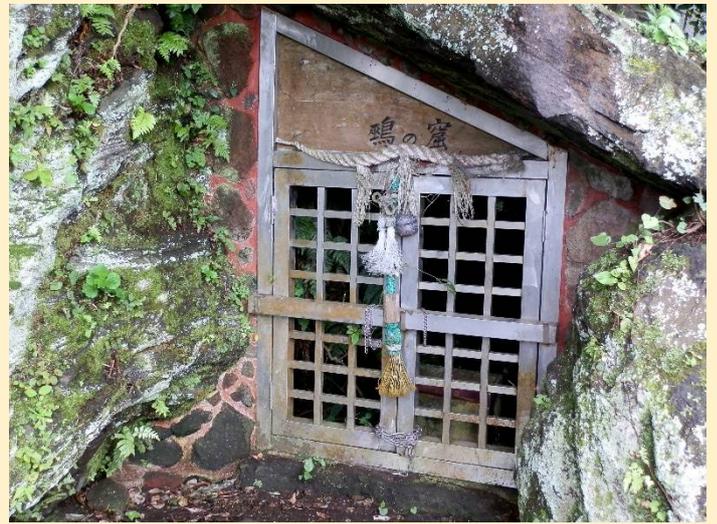
くねくねと路地を歩きやっと下り坂になった。



出たのは真鶴港。休日で釣り人も。カニが釣れていた！



品川台場礎石の碑。台場にも小松石が使われていた。



頼朝がここに隠れ難を逃れた「ししの窟」です。



かつて洞窟の前は波打ち際だった。



貴船神社に到着です。さあ上るぞ！



下で待つ人もいましたが、殆ど全員が挑戦！御利益のある長い階段が目の前に立ちはだかる。



リーダーも意地で？（上から見下ろすと結構急です）



その指先は何？ おまじない or 気合？（大丈夫か・・・）



厄除厄祓門。楽に通れた！（少しスリムになった？）



うまく門を抜けられた人は心願成就石に願いを！



港には小松石の積み出し埠頭がある。



さあまた坂道。海拔何mまで上るのか？



坂の上にはまた坂が！（今日はこのパターン）



コミュニティ真鶴。残念ながら休館でした。



真鶴駅に戻ってきた。これで一周したことに。



駅前スペースで熊坂さんのストレッチで締めとなった。



電車の時間が迫っていたので急いでホームへ。



真鶴といえばこの「うに清」(アフターここじゃないの?)

### 《今日の一言》

今年の梅雨は記録的な日照不足で、軒並み野菜が高騰しているとのこと。こう毎日ジメジメしては人間もカビが生えてきます。そういえば、この日訪れた真鶴町民俗資料館も、二階に上がるとカビの胞子が飛んでいるのか空気が淀んでいた。この胞子を吸い込むと、体調によってはカビアレルギーで気管支ぜん息になることもあるそうです。しかし我々はたっぷりと潮風を吸い込んだので大丈夫でしょう！ 帰り際には小雨も・・・結構アップダウンはあったが真鶴の山側を知る良いコースでした。

リーダー&SLをはじめ参加の皆さんお疲れ様でした。

END